



千葉労働動員

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話(鉄電) 千葉 2935・2936番
(公) 043(222)7207番
※ 電話番号は4月29日から変更になります
92.5.22 No. 3595

＝ 闘う沖縄の仲間たちと感動的に合流 ＝

反戦・闘う労働運動

沖縄派遣の創造を誓う



5・15、8,000人結集の千歳公園

復帰運動とは何だったのか。一九六〇年四月二十八日に復帰協が再結成された。復帰が日程に入った時から、安保体制の中に沖縄を組み入れることになると懸念したが、その通りだった。

有銘 政夫氏 (反戦地主・前中野地区労働局長)

今こそ考える時

復帰境に平和運動が転換の流れが変わった。質的転換と云っている。



有銘政夫氏

全軍労働争いを考えたい。場があると決着した。沖縄六一年に結成され、六八年の平和運動、労働運動、労働争いを語るとき、この闘争を全軍労働争いで基地内から金を抜いては語れない。P.K.O.が通れば自衛隊がし、軍事基地を撤去する運動を進めた。基地撤去と引き換えに、P.K.O.の醜さを隠し、日の丸・君が代が出た。今こそ、真剣に考える時。地域の住民運動が大切になる。

折からの集中豪雨の中で本土からの参加者二百名は、拍手とエールの交換で感動的に「平和行進団」と合流、八千人の大集会に参加、「P.K.O.反対」「基地撤去」を共に誓いあった。

15日 熱き魂と合流の

初夏を思わせる蒸し暑さと、バケツの水をひっくり返したようなスコールに見まわれながらも、沖縄派遣団十一名は、中野委員長を先頭に、元気いっぱいビッシリのスケジュールをやりきり、多くのことを学んできました。この体験から得た貴重な成果を、今後の活動の中に大いに生かしていく決意です。



20年の節目に今後の沖縄の進むべき道を探った「復帰20年を問う」—宜野湾市民会館

『琉球新報』も2面を集合大盛況も報道

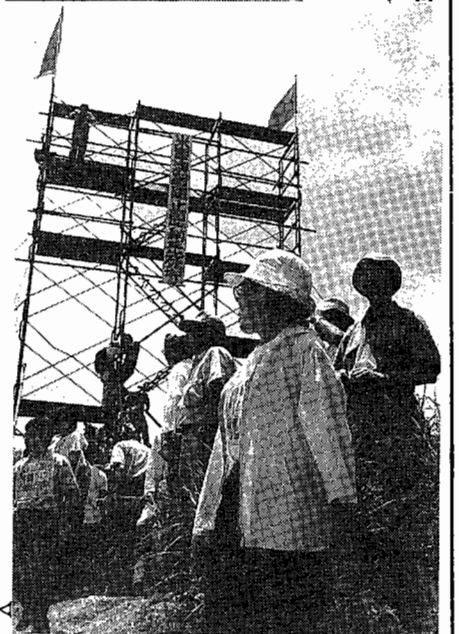
ら、連合支配を許さない新たな闘う潮流形成を確認し、その巨歩を踏み出した。



米軍演習監視ヤグラ 恩納村

派遣二日目は、各地域で闘っている住民団体との交流・視察、基地見学を行い、午後四

時からの「復帰二十年を問う」集会へと合流し、六時間にわたる真剣な提起・報告の中か



沖縄・本土を脅く (高教組会館) 反戦・派兵阻止を闘う

最終日は、闘う沖縄の仲間との膝を付き合わせての交流会である。切り開かれた地平を継承・発展させ、ことをしつかりと誓いあった。最後に、全軍労働・マリン支部の天願副支部長の音頭で団結カンパニーを三唱し全国に散った。

お礼

今回の沖縄派遣にあたり全組合員から厚い後援をいただきました。一風心からお礼申し上げます。この成果も今後の活動に十分生かす決意です。ありがとうございました。—青年部—



感動のうちに3日間の行動を終った。

▲ 沖縄・仲間たちの決意表 反戦・反核を担う労働運動を